りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新風国FXフラッシュ (2023年6月号)

2023/5/31 りそなホールディングス 市場企画部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは5月31日(水)9:00現在 ※休日の実績は前営業日

	※作口の夫額は則呂耒口										
			30日現在 は4月末比)		6月の予想	1					
USD	ドル・円 (円)	1	139.92	N	130.00 ~	145.00					
030	FOMCでの利上げ有無とドットチャートの更新に注目										
	ユーロ・ドル (ドル)		1.072	M	1.00 ~	1.10					
EUR	ユーロ・円 (円)	\rightarrow	150.01	M	135.00 ~	155.00					
	ユーロ圏経済への過度な楽観は徐々に修正される可能性										
	ポンド・ドル (ドル)		1.240	1	1.10 ~	1.30					
GBP	ポンド・円 (円)	1	173.48	M	160.00 ~	175.00					
	インフレ鈍化の兆しなく、BOEは当面利上げを継続か										
AUD	豪ドル・円 (円)	1	91.09	A	85.00 ~	100.00					
NZD	NZドル・円 (円)	1	84.54	A	80.00 ~	95.00					
INZU	RBA、RBNZの政策に	不透明	感								
	日経平均 (円)	1	31,328	\Rightarrow	30,000 ~	32,000					
株式	米国株に買い戻し強さ	まる場面	面では日本村	朱の上位	直が重くなりや	すい					
相場	NYダウ (ドル)		33,043	1	32,000 ~	34,000					
	FRBの利上げ打ち止め	り観測は	に期待も懸念	念は燻	3						
	日本 (%)	1	0.430	M	0.37 ~	0.47					
長期	7月会合に向けて、日	銀政策	変更の思惑	が高ま	る可能性						
金利	米国 (%)	1	3.687	M	3.00 ~	4.00					
	FRBの利上げ継続はあ	。 るか、	ドットチャ	ヮートタ	更新にも注目						

◆ 今月の注目ポイント

FOMCで市場で高まる追加利上げは実施されるか

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気	0	【中国経済】コロナ再拡大や外需の弱さ、不動産市況の停滞などから中国経済回復には陰りもみられる。PMI等の経済指標から先行きを見極め、比較的好調な国内経済への影響等注意したい。
金融政策	0	【FOMC】5月FOMCでは利上げ打ち止めの可能性について示唆があった一方、米国経済の堅調さや根強いインフレ動向から直近の金融市場では更に1回の利上げを織り込む向きも強まっている。FOMC参加者の意見にも相違がみられており、6/13-14FOMCの結果及び更新されるドットチャートの内容に注目が集まる。 【日銀金融政策決定会合】前回会合で四半世紀の金融政策のレビュー実施を発表し、植田総裁は当面の緩和継続姿勢を示す中、無風通過がコンセンサス。仮にYCC見直し等実施されればサプライズ。
政治 その 他	0	【国内政治動向】5月サミットを通過、通常国会も会期末に近づき、一部では解散総選挙実施への思惑も生じている。与党優勢の状況であれば国内株式には総選挙実施がポジティブとなりやすい。

アジア通貨見通し

人民元・円						
バーツ・円				1	10.20 ~	10.70
ルピア・円	\rightarrow	0.91 ~	0.95			

◆ 今月の重要日程

1日 (木) 米 5月ISM製造業	15日 (木) 欧 ECB理事会〈結果発表〉
2日 (金) 米 5月雇用統計	15日 (木) 米 5月小売売上高
5日 (月) 米 5月ISM非製造業	21日 (水) 日 日銀金融政策決定会合議事要旨〈4/27、28分〉
9日(金) 中 5月CPI・PPI	22日 (木) 英 BOE金融政策委員会
13日(火) 米 5月CPI	23日(金) 日 5月CPI
14日(水) 米 FOMC〈結果発表〉	23日(金) 欧 6月PMI

◎注意事項

りそな マーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年6月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替(ドル・ユーロ)



ドル円

米ドル円

◇ ドル円は下落

130.00 – 145.00円

FOMCでの利上げ有無とドットチャートの更新に注目

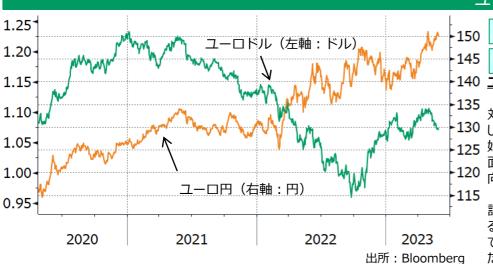
110 5月のドル円相場は中旬から月末にかけてほぼ右肩上がりで上昇し、一時半年ぶりに140円台を回復する場面があった。米国の経済指標の上振れが続き、インフレの高止まりと景気後退懸念
 105 の低下が意識されたことにより、FRBの利上げ織り込みが上昇し、米長期金利が上昇したことが背景。日経平均株価が33年振りの高値を更新し、国内市場全体にリスクオンムードに包まれたこと
 100 も、安全資産とされるJPY売りの一因となった。

6月は中旬にFRB、ECB、日銀が連続して政策決定を行う。特にFOMCでは利上げの有無に加え、FRBメンバーによる政策金利見通しであるドットチャートが更新される。直近のFRB高官発言はタカ派・ハト派に意見が分かれており、利上げの有無については五分五分であろう。ただし金融不安や景気減速懸念も残る中で金利見通しを大幅に引き上げることは考えにくく、昨年の大幅円安局面とは環境が異なる。既に市場の過度な利下げ織り込みは消滅していることから、一段と利上げ織り込みが上昇する余地は限定的であろう。また、先月は米債務上限問題を巡る不透明感から、米金利上昇・USD高となっている側面もあると思われる。債務上限問題が解決すれば、その要因は剥落することに加え、歳出削減による景気減速が一層意識される展開も想定される。

ユーロ

ユーロドル

ユーロ田



◇ ユーロドルは下落

1.00– 1.10ドル

135.00 – **155.00**円

-140 ユーロ圏経済への過度な楽観は徐々に修正される可能性

5月のEUR相場は対USDでは下落、対JPYでは上昇した。前月まで、利上げ終了が近いFRBに対してECBは利上げ継続が見込まれたことや、欧州経済の底堅さを背景にEUR相場は堅調推移してきたが、FRBの利上げ織り込みが復活したことに加え、ユーロ圏の経済指標の下振れが目立ち始め、ユーロ圏経済の先行き不透明感が生じてきたことから、軟化に転じた。日銀は金融緩和を当面継続すると見られることや、全般的にリスクオンムードのなか、安全資産とされるJPYが売られる傾向となったことから、対JPYでは底堅く推移したが、上値も重い状況。

6月のECB理事会では+0.25%の利上げ継続が見込まれる。ラガルド総裁は前回理事会後の記者会見にて「利上げはやめない」と宣言したが、一部のECB高官からは利上げが終盤に入っていることが示唆されている。市場ではあと数回の利上げが織り込まれているが、利上げの終了が近づいていることは事実だろう。ドイツ経済は2023年1-3月期がマイナス成長となり、景気後退入りしていたことが判明している。ユーロ圏経済への過度な楽観が修正される過程でEURは調整されやすい。

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。<u>取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。</u>

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年6月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替(ポンド・豪ドル・NZドル)



ポンド

ポンドドル

ポンドドルは上昇

1.10- 1.30ドル

ポンド円

◇ ポンド円は下落

160.00 – 175.00円

インフレ鈍化の兆しなく、BOEは当面利上げを継続か

5月のGBP相場は対USDでは下落した一方、対JPYでは上昇した。米景気後退懸念とFRBの早期利下げ期待を背景に前月までUSD傾向であったが、5月は米経済指標の上振れが続いたことよりUSD安が一服した。他方で、4月末の日銀会合にて日銀が政策現状維持を決め、日銀が早期に政策を変更するとの期待が大きく後退したことでJPY安傾向となり、ポンド円は一時170円台を回復して大きく上昇した。

5月に公表された英国のインフレ率は市場予想を上回り、特にコアCPIの前年比は+6.8%と、今般のインフレ局面での最高値を更新する等、英国においてはインフレ鈍化の兆しが見えていない。BOEは当面、利上げ方針を継続すると考えられるが、英国でも住宅価格の下落や景況感の悪化等、景気減速の兆候が見え始めている。当面は利上げ継続を材料に対USDで底堅く推移するとみるが、利上げ継続による英経済へのストレスには注意が必要だろう。日銀政策変更期待が高まり円金利上昇を予想し、対JPYでは下落を見込む。

豪ドル・NZドル



🥎 豪ドル円は下落

85.00 - 100.00円

NZドル円

豪ドル円

<u>\</u> 1

NZドル円は下落

80.00 - 95.00円

RBA、RBNZの政策に不透明感

5月のオセアニア通貨は対USDでは下落、対JPYでは揉みあいとなった。5月はRBA、RBNZともに利上げを実施したが、背景は異なる。RBAは前回の理事会にて利上げを見送り、今局面での利上げを終了したかに見えたが、サプライズ的に利上げを再開した。一方、RBNZは利上げを継続したものの、利上げ幅を減速したうえ、利上げ終了の可能性を示唆した。オセアニア通貨は上旬に行われたRBA後は上昇し、下旬のRBNZ後は下落した。その間、FRBの利上げ織り込みが上昇し、USD高基調となったこともあり、対USDでは軟調に推移した。

RBA、RBNZの今後の金融政策には不透明感が強い。オセアニアのインフレ鈍化は十分ではなく、インフレ抑制のためのタカ派姿勢が必要とされる一方、資源輸出国であり、世界景気に敏感であるオセアニア経済は、欧米を始めとしたグローバル景気減速の影響も受けやすい。中国のリオープンによる景気加速が期待ほどではない点も逆風となろう。特に対JPYでは日銀の政策変更期待が徐々に高まる場合、上値の重い展開となるだろう。

◎注意事項

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年6月号) &アジア・新興国FXフラッシュ

今月の相場見通し③ 株式、長期金利



日経平均

見通し

➡日経平均は横ばい

30,000 - 32,000円

米国株に買い戻し強まる場面では日本株の上値が重くなりやすい

5月の日経平均はバブル後の戻り高値を更新し、一時月初から2,500円以上の大幅な上昇と なった。良好な環境下、引き続き日本株は底堅い展開が予想されるが、4月の急ピッチな上昇か らいったんはスピード調整の動きも出やすい。また、米国の債務上限問題の妥結や、FRBの利上げ 打ち止めが確認され米国株に買い戻し強まれば、相対的に日本株買いの動きが抑えられやすい。 一方で一部で燻る解散総選挙が現実となれば一段高の材料となりうる。

NYダウ

ダウは上昇

32,000 - 34,000ドル

FRBの利上げ打ち止め観測に期待も懸念は燻る

債務上限問題は引き続き議会承認の手続きが残り、また妥結となった場合でも米国債の格下 げ懸念や、歳出削減に伴う景気下押し不安も残る。また、14日のFOMCでは、参加者の意見 が分かれる中でタカ派的となる可能性もあり、中旬までは上値は抑えられやすい。一方で、これら の懸念が和らげば、米国経済が底堅い中では見直し買いも入りやすい。月後半は上昇に転じる 可能性もあろう。

長期 利見通し 金



日本国債10年

◇ 金利は低下

0.37 - 0.47%

7月会合に向けて、日銀政策変更の思惑が高まる可能性

5月の国内長期金利は0.4%を挟んで一進一退となった。4月の日銀会合以来、日銀の早期 政策修正観測が後退したことから、国内金利の上昇圧力は低下している。一方、この間も賃金・ 物価は高水準で推移しており、足元で再び円安基調となってきていることから、先行きの国内物 価へも上昇圧力が生じる可能性がある。6月の会合では政策変更はないと予想するが、7月の 物価見通し更新に向けて、月後半にかけては徐々に金利上昇圧力がかかる可能性がある。

米国債10年

金利は低下

3.00 - 4.00%

FRBの利上げ継続はあるか、ドットチャート更新にも注目

5月の米長期金利は大幅に上昇した。経済指標の上振れが続き、インフレ高止まりの懸念が 高まったことや、景気後退懸念が低下したことから、FRBの利上げ織り込みが上昇し、利下げ織り 込みが低下した。一方、今月のFOMCでは利上げを見送り、今回更新されるドットチャート(FRB メンバーの政策金利見通し)は大きな上方修正はないものと予想する。既に年内の利下げ織り込 みは消滅し、一段の金利上昇余地は限定的と見る。FOMC通過後は金利低下へ転じよう。

◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2023年6月号)

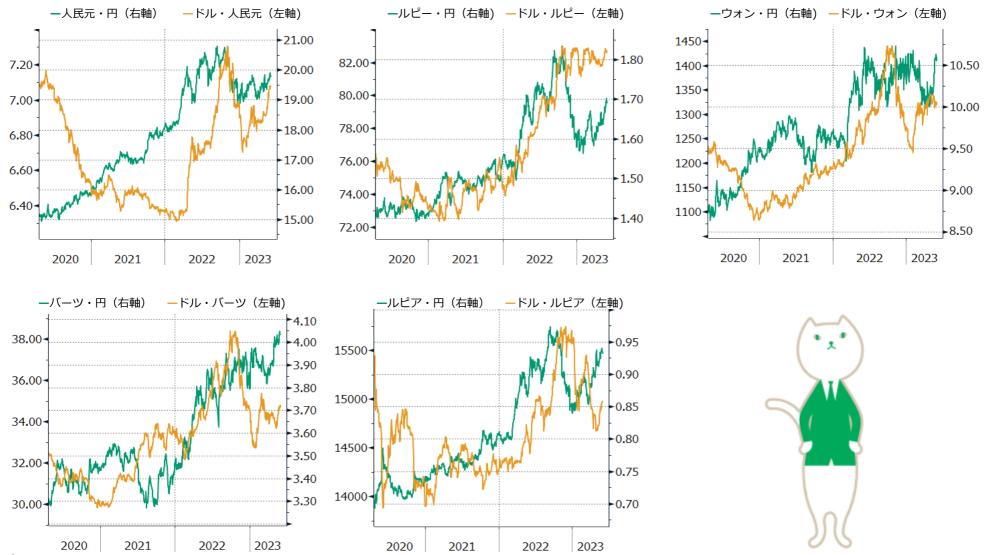
◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨(アジア)

		5/30	6	月の相場推移	6月の予想		解説			
中	人民元/円	19.71		19.26~19.92	Ø	19.50~20.00	中国経済指標の下振れや中国金利の低下を受け、5月の人民元は軟調な動きを見せた。経済指標の下振れから財政支援への期待が高まり、中国金利は反発しやすく、海外との金利差が縮小し、人民元のサポート材料となるだろう。一方、			
中国	ドル/人民元	7.091		6.89~7.11	\Rightarrow	7.00~7.20	第679代、海外での並利差が網がし、人民元のサポートが科となるにろう。 6月から始まる中国株の海外への配当フローで人民元に一定の売り圧力がある 6月は人民元は方向感が出にくい時間帯になる可能性が高い。			
夕	バーツ/円	4.031		3.95~4.05	\Rightarrow	3.95~4.05	良好な景気状況からバーツは5月上旬に対ドルで上昇したが、その後米国利上 げ織り込みの高まりによるドル買いで対ドルで減価となった。総選挙を経て政権交 代をめぐる不透明感があるものの、メインは混乱が避けられると見込む。CPIが目			
イ	ドル/バーツ	34.79		33.57~34.88	SI	34.0~35.0	である。イをいるイを可感があるものの、メインは混乱が延りられると見込む。CPIが自標レンジに入ったが、タイ中銀は引き続き人手不足に伴う賃金上昇への警戒がらり、タカ派姿勢を維持するだろう。バーツは対ドルで堅調に推移しやすい。			
インド	100兆°7/円	0.932		0.909~0.942	\Rightarrow	0.91~0.95	5月に多くのインドネシア経済指標が上振れしたものの、FRBの利上げ継続への 警戒感からドルルピアは上昇した。インドネシア中銀は政策金利を5会合連続で 据え置くなか、6月の会合でも金融政策の現状維持が見込まれる。インドネシア			
ネシア	ドル/ルピア	14,985		14,575~ 14,991	SI	14,850~ 15,050	中銀は依然としてルピアの安定性を重視する姿勢で、ルピアが底堅く推移するだろう。			
イ	ルピー/円	1.690		1.63~1.70	\Rightarrow	1.62~1.72	5月の堅調なインド株市況がポジティブ材料だったが、全般的なドル高の中、ルピーも対ドルで減価。貿易赤字の縮小、良好な景気状況を踏まえてルピーのファンダメンタルズが良好といえる。インド中銀は6月の会合で政策金利の据え置きが			
ンド	ドル/ルピー	82.72		81.66~82.85	Ø	82.30~83.30	見込まれるが、海外中銀も利上げ終盤に入りつつあることから、金融政策格差が生じにくいとみる。6月のルピーは対ドルで上昇するだろう。			
韓	100ウォン/円	10.550		10.04~10.64	SI	10.20~10.70	ドル高が進む中、韓国中銀の追加利上げの可能性が意識され、ウォンは対ドルで上昇した。5月の韓国中銀会合では政策金利が据え置きとなったが、政策委員の追加利上げに対するオープンな姿勢を見せた。ただし、半導体輸出の低迷			
韓国	ドル/ウォン	1,325	SI	1308~1,343	<i> ✓</i>	1,310~1,350	貝の追加利工がに対するオープンな姿勢を見せた。ただし、千導体輸出の低速や不動産市場への懸念が引き続き大きなネガティブ材料となるため、ウォンの上値が重いだろう。			

◎注意事項

りそな マーケットフラッシュマンスリー &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年6月号)





◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2023年6月号)

◆ 年間為替見通し

			2023年		2024年	-1 9 / 5 . 1	
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	ポイント	
ドル円	レンジ	130~145	120~145	115~140	115~140	FRBは4-6月に利上げ停止へ。その後、利下げ転換と	
רארז	期末値	135	135	130	125	日銀政策修正織り込みで年後半に円高基調へ。	
1 -0	レンジ	0.90~1.15	0.90~1.15	0.90~1.15	0.90~1.15	ロニの早辺成け功美が目にわるが、生行主の豚合け	
ドル	期末値	1.05	1.10	1.12	1.10	足元の景況感は改善が見られるが、先行きの懸念は 残る。年後半は欧米ともに利上げ停止・利下げが意	
2-0	レンジ	130~155	130~155	130~155	125~150	識され、対USDでは揉み合いとなる。日銀政策修正 期待で対JPYでは上値が抑えられる。	
円	期末値	142	149	146	138	WING CASH I CIGALIES PROCESSION	
ポンド	レンジ	1.00~1.30	1.00~1.30	1.00~1.30	1.00~1.30	スナク首相の下で混乱した経済や市場の立て直しを	
ドル	期末値	1.25	1.20	1.15	1.20	図るが、インフレは高止まりしやすく、ファンダメ ンタルズ面での不安要素は残る。BOE内部でも見解	
ポンド	レンジ	160~175	145~175	140~170	140~170	の乖離見られ、経済・金融政策の不透明感から、当	
円	期末値	169	162	150	150	面上値の重い展開を見込む。	
ドル	レンジ	7.00~7.20	6.80~7.30	6.70~7.00	6.60~6.90	強い財政支援策がない中、中国経済回復が予想ほど強	
人民元	期末値	7.10	6.90	6.80	6.70	くなく、人民元が弱含んでいるが、経済回復自身が変	
人民元	レンジ	18.06~20.71	16.44~21.32	16.43~20.90	16.67~21.21	わらず。年後半からインフレ上昇につれて中国金利が 上昇し、人民元を支えると見込む。	
円	期末値	19.01	19.57	19.12	18.66	±210(7,120,8 €20,7 €0 €20,2 € 0	
豪ドル	レンジ	85~100	80~105	80~105	75~100	中国の景気回復の恩恵を受け底堅く推移。金融不安	
円	期末値	85	91	88	84	から景気後退懸念に繋がるかがリスク要因。	
タイバー	レンジ	3.70~4.30	3.90~4.90	3.70~4.70	3.70~4.70	旅行需要回復から当面底堅く推移。年後半は日銀政	
ツ円	期末値	4.10	4.29	4.19	4.03	策修正織り込みや欧米景気悪化で対円下落を予想。	

◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2023年6月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
6/1(木)	10年債入札	5月ADP雇用統計	(中)5月製造業PMI
	1-3月期法人企業統計調查	5月ISM製造業景況指数	
6/2(金)		5月雇用統計	
6/3(±)			OPECプラス閣僚級会合(~4 日)
6/5(月)		4月製造業受注	
		5月ISM非製造業景況指数	
6/6(火)	30年債入札		(豪) 準備銀行理事会
	4月家計調查		(中) 5月貿易統計
	4月毎月勤労統計(速報)		
6/7(水)		4月貿易収支	
6/8(木)	1-3月期GDP(二次速報値)		
	5月景気ウォッチャー調査		
6/9(金)			(中) 5月CPI
6/12(月)	5月企業物価指数	10年債入札	
		3年債入札	
6/13(火)		30年債入札	(独)6月ZEW景気指数
		5月СРІ	
6/14(水)		5月PPI	
		FOMC(結果発表)	
6/15(木)	4月機械受注	5月小売売上高	(欧)ECB定例理事会
	5月貿易統計	6月NY連銀製造業景気指数	(中)5月生産・小売・投資
		6月フィラデルフィア連銀製 造業景気指数	

	日本	米国	その他
6/16(金)	植田日銀総裁定例会見		
	日銀金融政策決定会合(結果発表)		
6/19(月)		(奴隷解放記念日)	
6/20(火)		5月住宅着工・許可件数	
6/21(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (4/27~28開催分)	20年債入札	
6/22(木)	5年債入札	5月中古住宅販売	(英)BOE金融政策委員会
6/23(金)	5月消費者物価指数		(欧)6月PMI(速報値)
6/26(月)		2年債入札	(独)6月IFO企業景況感指数
6/27(火)	20年債入札	5月新築住宅販売	
		5年債入札	
		6月消費者信頼感指数	
6/28(水)		7年債入札	
6/29(木)	2年債入札	1-3月期GDP(確定値)	
6/30(金)	5月鉱工業生産 5月労働力調査	5月個人所得・消費支出	(中) 6月PMI





<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年6月号)

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

[5/6~5/11]

◎4月の製造業PMI、4カ月ぶり節目割れ

中国国家統計局と中国物流購買連合会は4月30日、2023年4月の製造業の景況感を示す製造業購買担当者指数 (PMI) が49.2だったと発表した。前月から2.7ポイント下落し、好不況を判断する節目の50を4カ月ぶりに下回った。市場の需要不足が数値に表れ、PMIを構成する全指数が落ち込んだ。中国政府の製造業PMIは3,200社を対象に生産状況や受注状況を前月との比較で尋ねたデータを基に算出している。50を上回ると生産や受注の拡大を、下回ると縮小を意味する。

[5/13~5/18]

◎1~3月の経常黒字、8%減の820億ドル

中国国家外貨管理局が12日発表した2023年第1四半期の国際収支統計(速報値)によると、海外とのモノやサービスの取引状況を示す経常収支の黒字は820億ドル(約11兆円)だった。前年同期に比べ8.4%減少した。中国人の海外旅行が増え、旅行サービスの赤字が拡大したことが響いた。資本・金融収支のうち、直接投資(FDI)は302億米ドルの純流出。海外から中国への流入額は205億米ドルで、中国から海外への流出は506億米ドルだった。「中国経済の発展は前向きな回復傾向を示し、国際収支の安定を支えている」と外貨管理局報道官はコメントしている。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年6月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

[5/19~5/25]

◎中国企業の海外投資、1~4月は26.6%増

中国商務省は22日、2023年1~4月の中国企業の海外直接と投資(FDI、金融業除く)が前年同期比26.6%増の2,892億9,000万元(約5兆6,700億円)だったと発表した。伸びは1~3月(26.3%)から拡大した。米ドル換算では17.6%増の421億9,000万米ドル(約5兆8,200億円)。海外で請け負った建設プロジェクトの新規契約額は2%増の4,064億7,000万元で、1~3月の1.8%減からプラスに転じた。米ドル換算では5.3%減の592億8,000万米ドルで、このうち一帯一路沿線国との契約額は297億4,000万米ドルである。

◎人民銀がLPR据え置き、9カ月連続

中国人民銀行(中央銀行)は22日、金融機関の貸出金利の目安となる貸出基礎金利(ローンプライムレート、LPR)の1年物を3.65%に据え置いた。住宅ローン金利の目安になる5年物以上も4.3%を維持した。据え置きは1年物、5年物ともに9カ月連続。人民銀は毎月20日にLPRを更新し、次の発表まで約1カ月にわたり有効となる。LPRは金融政策ツールである中期流動性ファシリティー(MLF)の金利を基に算出する。人民銀は今月15日に実施した公開市場操作(オペ)でMLF金利を据え置いていた。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4
実質GDP成長率	%	0.4	-	-	3.9	-	-	2.9	-	-	4.5	-
消費者物価上昇率	%	2.5	2.7	2.5	2.8	2.1	1.6	1.8	2.1	1.0	0.7	0.1
都市部調査失業率	%	5.5	5.4	5.3	5.5	5.5	5.7	5.5	5.5	5.6	5.3	5.2
輸出額	10億ドル	328.0	332.3	314.9	321.5	297.9	294.9	305.5	292.2	213.8	315.5	295.4
輸入額	10億ドル	230.6	229.6	233.9	237.2	213.0	226.4	228.6	192.8	197.4	227.3	205.2
経常収支	100万ドル	159,103	-	-	298,739	-	-	401,855	-	-	82,000	-
外貨準備高	10億ドル	3,071.3	3,104.1	3,054.9	3,029.0	3,052.4	3,117.5	3,127.7	3,184.5	3,133.2	3,183.9	3,204.8
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.70	6.73	6.80	7.02	7.21	7.17	6.98	6.79	6.84	6.89	6.89

※ 対ドル為替レート: 期末又は月末値 主要政策金利: 1年物貸出基準金利

出所:Bloomberg

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年6月号)

"上海下午茶"(上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

○労働節休暇、人が多すぎる!

5月の1週目は中国は労働節で休むことになっています。

休日は人が多く、観光地もにぎわっているので、私は例年通り車で実 家に戻ることにしました。

でも今年は例年と違い、高速道路でひどい渋滞にはまってしまいました。事故も多く、車が止まっている時もありました。普段実家には2時間半で戻れますが、今回は結局7時間もかかりました。朝9時半に出て実家に着くのは16時半ごろになり、丸一日も車の中にいて本当に疲れました。コロナ制限がなくなり、たくさんの人が久しぶりの自由を満喫するために、旅行に出かけたのかなと思います。

実家で飲食店を営むおばさんの話によると、今年の労働節は人は多いが食事はあまり高額なものでなく、安くて手ごろな量のものをお客さんは選んでいたそうです。報道されたように、今回の労働節は旅行者は多いが、一人当たりの消費額は高くないようです。3年間のコロナを経験して、リスク回避意識が高くなり消費にも慎重になっていると思われます。



○淄博(ずうぼ)でバーベキューをしたい

最近、WeChatやTikTokは淄博(ずうぼ)のバーベキューのショートビデオが多く、淄博はあっという間に人気の都市になりました。

皆さんは淄博という都市を全然知らないかもしれませんが、淄博は山東 省の中部に位置し、春秋時代「斎」の首都です。人気になっている理由 はバーベキューの味のおいしさ、値段の安さ、サービスのよさ、開放的 な街全体の雰囲気です。

きっかけは昨年まだゼロコロナ政策の時、ある教育大学の1万2千人の学生と先生が淄博に隔離にきて、淄博政府が親身に対応したことです。 そして街を離れる時に政府はバーベキューを手配したのです。彼らはとても感動して、来年春になったら「第二の家(淄博)」に帰ってバーベキューをすることを約束しました。

今年の春になり、学生たちは本当に帰ってきました。バーベキューのおいしさや淄博のサービスのよさなどの魅力をまとめたビデオをTikTokに投稿し、これで一気に人気になりました。同時に旅行局は値上げをしてはいけないという指示を出し、交通上もバーベキュー専用バスなどを開通し、環境を整えました。現在たくさんの有名人もわざわざ淄博に行って、バーベキューを食べます。インターネット宣伝のすばらしさに更に関心しました。また、淄博政府も評価したいですね。

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2023年6月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆国内経済、前月より鈍化

タイ中央銀行の2023年3月の経済報告によれば、国内経済の成長が前月より鈍化したとの見方を示した。鉱工業生産指数は前年同月比4.6%下落、特に食品・飲料、集積回路等の生産が減少した。一方、商用車、ハードディスクドライブ等の生産は拡大した。民間投資指数は前年同月比1.6%減と前月の0.1%増から減少した。機械・設備を中心とした資本財の輸入及び建設資材の販売が低調だった。外国人観光客数は前月比8.7%増の221万9,000人だったことで、サービスの消費が活発になり、民間消費指数は前年同月比6.0%増となった。

◆2023年3月輸出額、6カ月連続のマイナス成長

タイ商務省によると、2023年3月の輸出額は前年同月比4.2%減の276億5,440万米ドルだった。前年同月比で6カ月連続のマイナス成長だった。2023年1~3月の輸出額は前年同期比4.5%減の702億8,010万米ドルだった。農産物・加工品の輸出は前年同月比4.2%増加したが、主要工業製品は同5.9%減少した。石油関連製品(同14.2%減)、工作機械・同

部品(同13.7%減)等がマイナス成長で不振だった一方、自動車・同部品が3カ月連続でプラス成長(同1.4%増)。バイク・同部品(同5.0%増)、半導体(同66.4%増)、エアコン・同部品(同16.7%増)等も拡大した。国別では、米国向けの輸出額は同1.7%増の45億2,000万米ドルで最大。次いで、中国向けは同3.9%減の30億8,000万米ドルだった。日本向けは同10.2%増の25億800万米ドルでプラス成長に転じた。3月の輸入額は前年同月比7.1%減の249億3,550万米ドルで、貿易収支は27億1,880万米ドルの黒字となり、12カ月ぶりに黒字に転じた。3月の対米ドル・バーツ相場は平均で1米ドル=34.49バーツで、前月の34.05バーツからバーツ安となった。

◆2023年4月CPI、前年同月比2.67%上昇

タイ商務省が発表した4月の一般消費者物価指数(CPI)は、前年同月比2.67%上昇し、過去16カ月で最低の水準となった。ウクライナ戦争に起因するエネルギー価格高騰が収まったこと等が背景にある。

主要経済指標

<月次データ>

		く月次ナーク	/ /									
項目	単位	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4
実質GDP成長率	%	2.5	-	-	4.6	-	-	1.4	-	-	2.7	-
消費者物価上昇率	%	7.7	7.6	7.9	6.4	6.0	5.6	5.9	5.0	3.8	2.8	2.7
失業率	%	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-
輸出額	100万ドル	26,508	23,629	23,633	24,919	21,772	22,308	21,719	20,250	22,376	27,654	-
輸入額	100万ドル	27,681	27,290	27,848	25,772	22,369	23,650	22,753	24,899	23,490	24,936	-
経常収支	100万ドル	-3,080	-4,045	-3,588	-69	511	-551	967	-2,149	1,332	4,779	-
外貨準備高	10億ドル	222.3	220.0	215.0	199.4	201.9	210.7	216.6	225.5	217.4	224.5	223.5
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.75	1.00	1.00	1.25	1.25	1.50	1.50	1.75	1.75
対ドル為替レート	バーツ	35.0	36.4	35.9	37.0	37.9	36.4	34.8	33.2	34.1	34.5	34.3

※ 対ドル為替レート: 期末又は月末値 主要政策金利: タイ翌日物レポ金利

出所: Bloomberg

◎注意事項

<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2023年6月号)

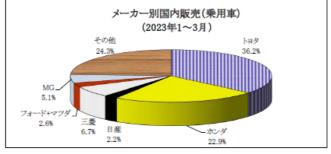
タイにおける自動車産業の動向

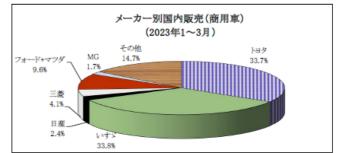
りそな銀行バンコック駐在員事務所

							出所:	タイ工業連盟(FTI)
			2020年	2021年	2022年	2023年	前年同期比	3月
						(1-3月)	(96)	
【台数】		(台)						
四輪	生産台数 栗用車		542,437	599,844	600,839	179,504	131.5	63,840
		商用率	884,533	1,085,861	1,282,676	328,283	95.5	116,008
		合計	1,426,970	1,685,705	1,883,515	507,787	105.8	179,848
	国内販売台数	乗用車	274,789	251,800	265,069	77,566	102.4	29,835
		商用車	517,357	507,319	584,319	139,507	89.7	50,108
		合計	792,146	759,119	849,388	217,073	93.9	79,943
	輸出台数		735,842	959,194	1,000,256	273,692	112.6	98,381
二輪	生産台数		1,615,319	1,780,654	2,015,940	580,678	118.7	198,496
	国内販売台数		1,516,096	1,606,481	1,792,016	506,566	113.0	184,462
輸出台数			727,152	965,967	1,034,840	241,199	90.6	76,041
【完成車輸出金額】 (百万パーツ)								
四輪			410,912	561,147	619,348	168,122	116.6	60,649
二輪			85,802	75,985	73,729	19,495	105.4	6,600

	四輪車輸	出•国内販売台数0	D推移 (単位:台)
2023年(1-3月)	139,507	业台数 507,787台	
2022年	265,069 584,319	1,000,256	生産台数1,883,515台
2021年	251,800 507,319	959,194	生産台数1,685,705台
2020年	274,78 517,357	735,842	生產台数 1,426,970台
0	500,000	1,000,000 1,500,00	00 2,000,000
■ 国	内販売台数(乗用車)	□国内販売台敷(商用	車) ■輸出台数

【メーカー別国内販売台数】										出所:トラ	9夕自動車
		2020年	シェア	2021年	シェア	2022年	シェア	2023年	前年同期比	シェア	3月
			(%)		(%)		(%)	(1-3月)	(%)	(96)	
トヨタ	栗用車	68,152	24.8	62,403	24.8	82,738	31.2	28,080	138.1	36.2	9,953
	商用車	176,164	34.1	177,320	35.0	206,071	35.3	47,041	82.8	33.7	15,760
	合計	244,316	30.8	239,723	31.6	288,809	34.0	75,121	97.4	34.6	25,713
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	181,194	35.0	184,160	36.3	212,491	36.4	47,159	82.1	33.8	17,133
	合計	181,194	22.9	184,160	24.3	212,491	25.0	47,159	82.1	21.7	17,133
ホンダ	乗用車	77,419	28.2	76,886	30.5	61,665	23.3	17,786	89.4	22.9	7,053
	商用車	15,622	3.0	11,806	2.3	21,177	3.6	8,175	142.7	5.9	3,132
	습計	93,041	11.7	88,692	11.7	82,842	9.8	25,961	101.3	12.0	10,185
日産	乗用車	27,120	9.9	19,790	7.9	10,933	4.1	1,740	42.4	2.2	676
	商用車	17,438	3.4	9,906	2.0	11,588	2.0	3,334	102.1	2.4	1,182
	合計	44,558	5.6	29,696	3.9	22,521	2.7	5,074	68.9	2.3	1,858
三菱	乗用車	22,363	8.1	18,456	7.3	21,157	8.0	5,218	94.7	6.7	1,789
	商用車	35,046	6.8	28,732	5.7	29,228	5.0	5,744	67.0	4.1	2,283
	습計	57,409	7.2	47,188	6.2	50,385	5.9	10,962	77.9	5.0	4,072
その他	乗用車	79,735	29.0	74,265	29.5	88,576	33.4	24,742	95.6	32.0	10,364
	商用車	91,893	17.7	95,395	18.7	103,764	17.7	28,054	118.5	20.1	10,618
	습計	171,628	21.8	169,660	22.3	192,340	22.6	52,796	106.5	24.4	20,982
슴뽥	乗用車	274,789	100.0	251,800	100.0	265,069	100.0	77,566	102.4	100.0	29,835
	商用車	517,357	100.0	507,319	100.0	584,319	100.0	139,507	89.7	100.0	50,108
	습計	792,146	100.0	759,119	100.0	849,388	100.0	217,073	93.9	100.0	79,943





◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。<u>取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。</u>